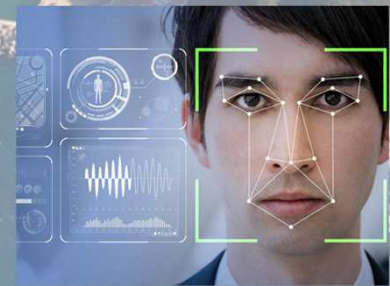




南紀熊野スーパーシティ構想

消滅可能性都市“すさみ”を
日本最先端の町に！



南紀熊野スーパーシティ構想の実現に向けて



すさみ町長 岩田勉

すさみ町は、消滅可能性都市上位の過疎の町。和歌山県の中で最も課題が顕在化した地域であり、それは日本の10年先の姿でもある。海路の時代は紀伊半島先端にあるすさみ町は交易の拠点であり、ケンケン漁（かつお漁）、レタス栽培、イノブタの発祥の地であるなど、イノベーションの地であった。また海外に移民を輩出するなどフロンティア精神に溢れた地である。

今回、再びテクノロジーを活用したイノベーションにより、地域の課題の解決、地域の活性化のチャンスが巡ってきた。元漁師の私が地域に恩返しをする時だ。

紀南の核になってやるという誇りをもって、町民と一体となってスーパーシティ構想を推進していきたい。



和歌山県知事 仁坂吉伸

戦後、我が国は経済発展を遂げる中で、都市圏への人口集中が進み、地方は衰退の一途を辿ってきた。

今回のスーパーシティ構想は、衰退を重ねた町が最先端の町に逆転出来る千載一遇のチャンスである。

すさみ町は高齢化が進み課題も顕著である。著名な観光資源などがなくても、最先端の技術と制度で解決できるというモデルを作りたい。そして、この取組を成功させることは、一自治体のみならず、県南部地域全体、そして全国の地方の未来を変える再生モデルになると確信している。

紀州人は、古くから進取の気性に富み、新たなものを受け入れる寛容さを有している。まさに実験場としては申し分のない地域である。苦境にある町がスーパーシティ構想で復活する可能性に我々は賭けてみたい。



アーキテクト 岡田信一郎（南紀白浜エアポート代表取締役社長）

南紀白浜エアポートは「空港型地方創生」がコンセプト。空港の発展は地域の発展からという考えのもと、地域活性化に取り組んでいる。特に南紀白浜は、IT企業が集積し、顔認証技術を使ったおもてなしや三密可視化センサーの設置、ドローンを使った点検など、新しいテクノロジーを積極的に導入してきた地域。新しいテクノロジーを受け入れる風土や官民連携を高めるコミュニティが既に地域に存在する。

企業にとっても絶好の社会実装の実験フィールド。羽田からすさみ町まではわずか1時間半であり、東京郊外のショールームである。

すさみ町を突破口として、紀南全体にスーパーシティを展開していきたい。

高齢化率47%超など、 超高齢化社会となる10年先の日本の姿がある



弱み

消滅可能性都市

- ・ 人口約3,800人、高齢化率47%超（過去50年で人口半減）
- ・ 毎年約100人の人口減少
- ・ 少子化の進行による学校統合や規模縮小
- ・ 進学や就職を契機とした継続的な若者の流出
- ・ 地域産業の担い手不足と地域経済のさらなる衰退
- ・ 二次交通網の衰退と観光産業の機会損失
- ・ 南海トラフ地震等の大規模災害（最大津波高19m）

地域存亡の危機的状況＝実験実証の最適地

強み

立地・自然・文化・人

- ・ 羽田空港から約90分という時間的近接性
- ・ 吉野熊野国立公園や世界遺産熊野古道などの豊富な観光資源
- ・ 海外移民を多数輩出したフロンティア精神溢れる風土
- ・ 移民がお世話になったからこそ、人を温かく迎える厚い人情
- ・ ケンケン漁、イノブタ（イノシシ×ブタ）、レタス栽培の日本発祥といったイノベーションの地
- ・ 先端技術の社会実装の場としての紀南地域の実績
- ・ ワーケーション先進地としての認知度

先取の気性に富み、新しいもの受容する寛容さ

最先端技術と規制緩和で地域課題を解決し、地方再生のモデル地域へ

テクノロジー×人×自然×文化「未来観光の町」

町全体が“最先端テクノロジーのショーケース” すさみの自然や日常をハイテクで体験

- 最先端技術の実証実装で進化を続ける「常に10年先の暮らしを体験できる」未来の町
- 最先端技術とすさみのリアルを融合（温かい住民やゆったりとした日常等の“生活資源”、吉野熊野国立公園や南紀熊野ジオパーク等の“自然資源”、世界遺産熊野古道などの“文化資源”）させ、町全体を観光資源化
- 最先端技術の実装により、“暮らすように過ごす”新たな旅の形「ライフケーション※」を実現。来訪者を観光客ではなく、一人の住民として歓迎。住民との交流やすさみの生活そのものを楽しんでもらうことで、交流人口から関係人口・定住人口へと繋げていく。
- これまで取り組んできたワーケーションとライフケーションをかけ合わせることで、更なる地域価値向上を図る
- すさみからチャレンジをはじめ、同様の地域課題を抱える南紀熊野、全国の過疎地域へと展開

※ライフケーション＝ライフ＋コミュニケーション＋バケーション の造語



最先端テクノロジー事例

未来の暮らしをまるごと体験できる“最先端テクノロジーのショーケース”

観光

- 住民顎足枕マッチングでどこでもランチ、どこでも民泊、誰でもタクシーで住民交流
- 顔認証で顔パス決済、手ぶら観光サービスで気軽に散策、3密可視化で安心・安全
- バイタル常時計測ですさみ観光のウェルネス効果を実感
- 日本のレタス栽培発祥の地で次世代型水耕栽培施設を活用したレタス収穫体験

移動

- クリーンエネルギーを活用した自動運転
- フライト時間に合わせた乗合タクシー送迎
- ラストワンマイルはマイクロモビリティで移動
- 休日の遊休公用車を活用したシェアリング

教育

- 実装された最先端技術を教材に使用
- 世界中の教師を活用したオンライン型ICT教育
- ワーケーションによる短期滞在者の子供も、ICTと自然を学べる区域外就学制度

物流

- 水揚げ直後のケンケン鰻をドローン配送
- 受取の本人確認は顔認証で完了
- 日用品はドローンで即日配送

防災

- 災害時の被害状況はドローンが収集・AI分析
- 津波災害時のデータを用いた避難誘導や救助
- 要救助者は位置情報データ等から特定
- 孤立集落にはドローンが物資搬送

医療

- 自宅からオンライン診療
- 医薬品はドローンで配送
- バイタル常時計測器の装着で疾病を早期発見
- バイタル異常時は自動で救急車が駆け付け

低炭素

- 水素や木質バイオマスチップを活用したクリーンエネルギーの提供
- ドローン配送による物流網のエコ化
- FCV/EVカーシェア等による観光の脱炭素化

大胆な規制緩和による“未来観光の町”の実現

来訪者と地域住民の
交流機会の不足

ワーケーションや長期滞在を
促進する環境整備

医薬品や日用品等、
必要なときに必要なものが
手に入らない

土日や夜間の運行休止など
二次交通が不便

調理場の施設基準緩和と
民泊可能日数の上限撤廃

- 【主な規制】
- ・ 食品衛生法施行規則第66条の7
 - ・ 住宅宿泊事業法第2条第3項

時間有給休暇の取得制限緩和等
労働関係法制の緩和

- 【主な規制】
- ・ 労働基準法第38条第1項
 - ・ 労働基準法第39条第4項
 - ・ 労働基準法第41条の2第1項第2号

ドローンの
目視外AI自動航行

- 【主な規制】
- ・ 航空法第132条の2

完全無人自動運転化と
運賃キャッシュレス化

- 【主な規制】
- ・ 道路交通法第71条の4の2
 - ・ 道路運送法第13条



住民宅での食事・宿泊の提供
～どこでもランチ・どこでも民泊～



時間にとらわれない
豊かなライフスタイル



山間部や過疎地域の便利な物流



便利で持続可能な地域交通

来訪者が暮らすように過ごす“ライフケーション”を実現

10年先の未来の暮らし体験を実現

新たな規制・制度改革の提案（一覧表）

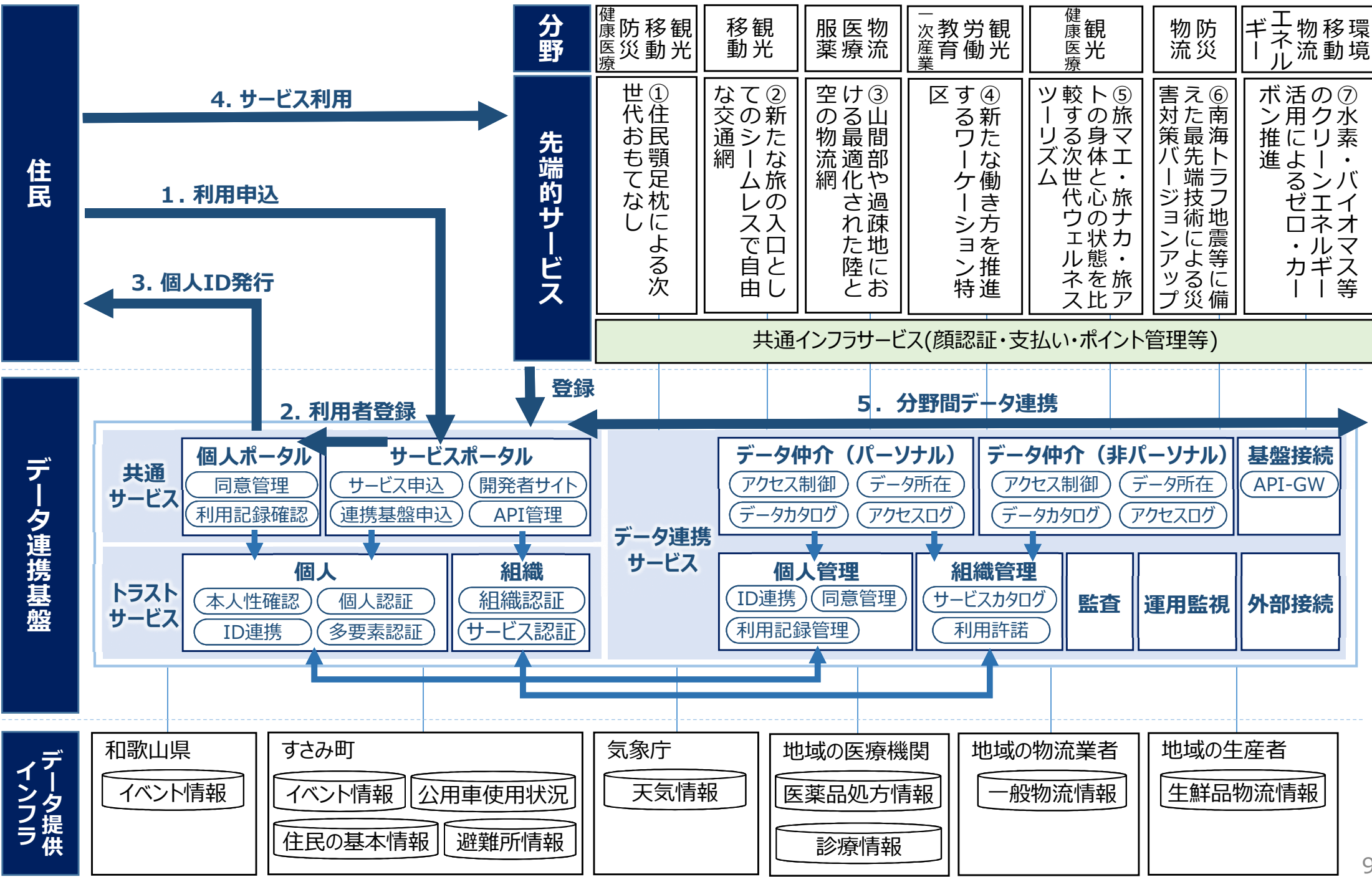
No	提案名（関係規制法令等）	提案する新たな措置の内容
1	食品衛生法上の施設基準の緩和 （食品衛生法、食品衛生法施行規則）	・民泊利用者に限定して地元住民が提供する食事については、農林漁業体験民宿業と同等の食品衛生法の要件緩和を行った食品営業許可を行うこと。 ・民泊利用者以外に対しても、客と同席して自ら調理した料理を食べる形式で営業を行う場合は、家庭用台所で調理したものを提供することを認めること。
2	家主同居型民泊の日数上限の撤廃 （住宅宿泊事業法）	・所有者が家屋を住居の用に供しながら、空いている部屋等を有効活用する目的で行う「家主同居型」の民泊については、提供日数（180日）の制限を撤廃すること。 ・空き家民泊についても、防災・防犯等の問題解消を目的とした有効活用であるため、提供日数の制限を撤廃すること。
3	路線バスのオンデマンド化および多目的車両化 （道路運送法、道路運送法施行規則）	・地域で公平な利用機会が担保される場合は、道路運送法、道路運送法施行規則に、例外規定を設けるなどし、運行時間場所を自由に設定できるようにすること。 ・「かけもち運送」の取扱条件を緩和（運送できる荷量等）し、自由度を高めること。
4	路線バス・デマンドバスにおける変動運賃制の導入 （道路運送法）	・IT等を活用し、合理的かつ明確な手法に基づき算定した場合、変動運賃の採用を認めること。
5	完全自動運転によるバスの運行 （道路交通法、道路運送車両法）	・「運転者」の定義に「自動運行装置」を含めること。
6	自動運転バス運行における完全キャッシュレス化 （道路運送法）	・完全キャッシュレスに限定した自動運転バスの運行を許容すること。
7	一般公道上における「フリーポートゾーン」の設置 （道路交通法）	・駐車禁止場所として規制されている場所を規制緩和の対象とすること ・本サービスが、駐車禁止の例外及び許可対象に含まれるよう、規制緩和すること
8	超小型モビリティの電動ハイブリッドバイク運転時におけるヘルメット着用義務の緩和 （道路交通法）	・交通量が少なく安全と認められた地域において、走行能力が自転車と同程度の電動ハイブリッドバイクで、国土交通省の認可を受けた車両であれば、ヘルメット着用義務を除くこと

新たな規制・制度改革の提案（一覧表）

No	提案名（関係規制法令等）	提案する新たな措置の内容
9	AI自動航行ドローンによる第三者上空飛行の解禁 （航空法、道路交通法）	・ 技術的に安全性が担保された機体については、以下の飛行を認めること。 ①操縦者なしでのAI自動航行 ②日時、経路の事前承認なしでの第三者上空飛行 ・ 道路上空及び周辺の飛行について、道路使用許可が必要となる基準（飛行高度等）を明確にすること。
10	副業・兼業の労働時間の通算に関する特例 （労働基準法）	・ すさみ町でワーケーションを行うとともに、地域の企業等での副業・兼業する場合、「労働時間の通算」の適用を除外すること。
11	時間単位年次有給休暇の取得制限の撤廃 （労働基準法）	・ すさみ町内におけるワーケーション実施時に限り、時間単位年次有給休暇の取得制限（累計5日）を撤廃すること。
12	「高度プロフェッショナル制度」に関する特例 （労働基準法）	・ 対象者の年収を和歌山県の令和元年の基準年間平均給与額の248.1万円の3倍を相当程度上回る水準として、750万円以上に緩和すること。
13	農地にワークスペース機能を有する農業用ハウスを設置する場合の農地転用許可の特例 （農地法）	・ 地域の農業振興を図ることができると市町村長が認定した場合、農地の転用許可を不要とすること。
14	農地以外の場所にワークスペース機能を有する農業用ハウスを設置する場合の固定資産の評価の特例 （地方税法）	・ 地域の農業振興を図ることができると市町村長が認定した場合、不動産登記上の農地以外の場所に設置されていたとしても、固定資産課税上は農地として評価すること。
15	初診を含めたオンライン診療の恒久化 （医師法）	・ 現在は「時限的措置」としてオンラインや電話による初診が認められているものの、慢性的に医師が不足し、過疎化と高齢化が加速する地区での早期の課題解決のため、恒久化すること。
16	初回を含めたオンライン服薬指導の恒久化 （医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第同法施行規則）	・ 現在は「時限的措置」としてオンラインや電話による初回調剤時の服薬指導が認められているものの、過疎化と高齢化が加速する地区での早期の課題解決のため、恒久化すること。
17	AI自動航行ドローンによる災害時の危険物輸送の解禁 （航空法）	・ 技術的に安全性が担保された機体については、日時、経路の事前承認なしで、自治体による災害時の危険物輸送を可能とすること。

データ連携基盤のシステム構成図
【全体概要】

Ⅱ ⑥「データ連携基盤」に関する事項



すさみ町未来観光 ～家族みんなでワーケーションモデルケース～

【家族：東京在住】
会社員(38歳デザイン会社勤務)
配偶者(37歳)
子供(10歳)



興味
関心



- 世界遺産の熊野古道にハイテクいっぱいの田舎町があるらしい
- SNSのコメントでは観光でも仕事環境でも高評価
- PRサイトでVR体験したジオサイトのフェニックス褶曲も凄かった
- 気分転換もしたいし、家族3人で1週間のワーケーションに行ってみよう

来訪



- 羽田から飛行機とシャトルタクシーで約90分と東京からすごく近い。
- この町ではすべて顔認証でキャッシュレス。手ぶらで観光できて便利
- 町内の移動は自動運転。買ったお土産は宿泊施設へドローンが自動配送
- ストレス度を可視化できるウェアラブル端末があったのでお試しレンタル



体験

仕事



- 枯れ木灘海岸を望むワークスペース兼次世代農業施設で、仕事の合間に農業体験
- 午後から時間有給休暇を取得。地元企業のホームページ制作で副業を体験

教育



- 周参見小学校は区域外就学制度があり、短期間でも通えるので勉強も安心
- オンラインで最先端のICT教育を学べ、すさみならではの自然学習も体験できる

ライフケーション



- 一般家庭で“どこでもランチ”が食べられる。イノブタの投稿を見てWEB予約
- ホテルでは新鮮なケンケン鰻をドローンが運んできた！モチモチで美味しい

効果

- ウェアラブル端末で可視化されたストレス度は東京と比べ格段に低下。自然の癒し効果を実感！
- 家族みんなが大満足。最高の体験をSNSにアップして友達にもおすすめ！今度は両親も誘って行ってみよう！

すさみ町未来の暮らし ～住民の日常モデルケース～

【家族：すさみ町在住】
ホテル従業員(38歳・シェフ)
配偶者(37歳)
子供(10歳)



本人 (シェフ)



- ウェアラブル端末で健康状態を確認
- 最近ストレス度が高いので、念のため、オンラインで医師に相談

配偶者



- 自宅で「どこでもランチ」を運営。お昼ご飯を登録していたら、今日も申込あり。都会の方との交流が楽しみ

子供



- 今日は大好きなプログラミング授業
防災ドローンのAIシステムが教材

午前

午後



- 登録情報では予約のお客様は魚好き。ケンケン鰹をドローン配送で発注。
- サラダはホテル内の縦型水耕施設で栽培したレタスを使おう



- 最近親が自動運転バスで語り部を始めた。新しい生きがいを見つけたと嬉しそう。
- 自宅の空き部屋を活用し民泊を運営。今晚はイノブタ鍋でおもてなし



- 午後はジオサイトで自然学習。東京から来た友達に羨ましがられ誇らしい
- 学校近くのサテライトオフィスを見学
友達のお父さんもワーケーション中

効果

- 「未来観光」が浸透し来訪者が増加。地元雇用も増えた。配偶者も自由な時間が増え、自分のやりたいことが仕事になりご機嫌。
- 子供も新しい友達から影響を受け学習意欲がアップ。将来はすさみ町でIT起業を目指すと言っている
- 町には来訪者だけでなく移住者も増えてきた。活気あふれる町になってうれしい！